

菊池病院が担う役割について

平成 3 0 年 6 月 独立行政法人国立病院機構 菊池病院

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

菊池病院の理念、基本方針等

- 病院の理念：安心して相談できる心と脳の専門医療を目指します。
- 菊池病院の目標：「MENTAL」
- Mental Care：人権を尊重した安心かつ納得できる精神医療とケア
- EBM：最新の医学的知見に基づいた安全で理にかなった治療
- National Policy：政策医療を中心とした社会のニーズに対応できる医療
- Teaching：高度かつ先駆的な精神医療のための研究・教育・研修
- Amenity：自然に囲まれ、ゆったりと落ち着いた快適な治療環境
- Local Network：地域の関連機関と協力・連携した心の健康づくりの形成

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

菊池病院の診療実績(届出入院基本料、平均在院日数等)

1. 届出入院基本料

精神病棟入院基本料(15対1) : ウイング1病棟

認知症治療病棟入院料1 : ウイング3病棟

障害者施設等入院基本料(10対1) : ウイング2病棟、ウイング7病棟

指定入院医療(医療観察法) : ウイング6病棟、ウイング1Sユニット

2. 平均在院日数(2017年度)

精神病棟(認知症を含む) : 174.2日

医療観察法病棟 : 1232.8日

重心病棟 : 2,317.0日

病院全体 : 313.3日

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

菊池病院の職員数：249名

- 医師：10名
- 看護職員：160名
- 専門職：55名
- 事務職員：24名

菊池病院の特徴

- 精神：脳器質性精神疾患を含む精神障害の医療。老年期脳障害、特に高齢者認知症患者に対する医療。医療観察法医療。
- 慢性期(重心)：強行動障害を伴う重症心身障害児(者)いわゆる「動く重心」に対する医療及び療育。

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

菊池病院の担う政策医療(5 疾病・ 5 事業及び在宅に関する事項)

1. 精神：当院では、軽度認知症患者の精神症状が改善するまでは、精神一般病棟で集団生活に耐えうる状態まで加療し、後に認知症病棟へ転棟するケースが少なくない。よって認知症治療と連携して精神一般病棟でも患者数を確保できている。入院加療においては、自宅療養、或いは施設入所が可能な状態までの症状の緩和を目標としている。
2. 慢性期（重心）：強度行動障害を対象とした施設は国立病院機構精神科以外ではほとんど実施例が無く、九州全域～中・四国を中心に入所相談を受けている。関西、関東以北方面からの相談も受け付けているが、事前受診・入院時の搬送等や緊急時対応の問題からこれまで入院に繋がった例はない。待機相談は定期的に続いており、ニーズは高い領域である。現状では、受入先の問題から精神科病院の隔離室等に入院を余儀なくされている患者が多く、地域移行の流れを受け更に相談は増加すると考えられる。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

1. 菊池構想区域内で唯一の地域拠点型認知症疾患医療センターとして、行政機関、地域包括センター、医療・介護福祉施設等との連携を充実、強化し、後方支援及び在宅医療にも対応した老年期精神障害に対する総合的専門医療を担う。
また、他の医療機関従事者（NS・PSW）向けに「西日本認知症高齢者対策研修」を実施しており、認知症高齢者ケアに関する教育研修の充実を図っていく。
2. 熊本県内唯一の「動く重心」の入院受入れ施設として、地域に不足している病床分を病棟建替に併せて増床し、医療需要に対応する。
3. 熊本県内唯一の医療観察法の指定入院及び通院機関であり、司法からの受入れ要請には、積極的に対応する。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その1 】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期			
急性期			
回復期			
慢性期	80	100	100
その他(精神)	167	139	139
合計	247	239	239

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

- 「動く重心」病床数の増床
重症心身障害児に対する医療については、熊本県のみならず県外からも広く患者を受け入れているが、満床状態が継続し、未だ待機患者も複数存在している。この医療需要に対応するため、病棟建替にあわせて20床の増床を予定している。
- 精神病棟の集約
病棟建替にあわせて、精神病棟を3個病棟から2個病棟とするが1病棟1ゾーンの現病棟の構造から1病棟を2ゾーン化することで、3病棟3ゾーンから2病棟4ゾーンの構造となり、疾病構成や患者病態に応じた柔軟な運用が可能となる。
- 医療観察法病棟ユニット(6床)の閉棟
病棟建替にあわせて、病床稼働率の低い社会復帰用ユニットを閉棟し、看護師の人員確保を行う。なお、閉棟したユニット棟は病床としてではなく、生活訓練施設として有効に活用する。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 診療科の見直し 】

	現時点 (2017年 9月時 点)	2025年	理由・方策
維持	精神科・神経科・小 児科・リハビリテー ション科・内科・心 療内科・歯科	精神科・神経科・小 児科・リハビリテー ション科・内科・心 療内科・歯科	<ul style="list-style-type: none">・精神科 当院の主たる診療科である。・神経科、小児科 てんかん、発達障害を含む重心病棟の運営においては、対応する診療科として標榜を継続する必要がある。・リハビリテーション科 患者の精神的な面だけでなく、身体的な面からも総合的にケアしていくために必要。・内科 認知症病棟では、高齢のため合併症をもつ患者が多い。今後、内科医師の増員を計画しており必要である。・心療内科 教職員や会社員のメンタル相談等について、委託業務契約を結ぶこともあり、標榜は欠かせない。・歯科 入院患者に対して口腔ケアを中心とした歯科診療を行っており、今後も認知症ケアの一環として、また誤嚥性肺炎の予防ケアとして、歯科診療を継続する必要がある。
新設			検討の上、見直しなし
廃止			検討の上、見直しなし
変更・統合			検討の上、見直しなし

3 具体的な計画

(2) 数値目標

	現時点	2025年
病床稼働率	精神病棟（認知症を含む）：94.71% 医療観察法病棟：87.64% 重心病棟：99.21% 病院全体：95.55%	精神病棟（認知症を含む）：97.0% 医療観察法病棟：90.0% 重心病棟：100.0% 病院全体：97.7%
紹介率	71.8%	80.0%
逆紹介率	37.8%	60.0%

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

菊池病院の取組み

1. 2018年度精神病棟(一般精神60床・認知症60床)、重心病棟(50床×2個)の病棟等建替工事に着工する。2019年度に完成させ、各病棟の患者数確保(病床稼働率の向上)を図る。

菊池病院の課題

1. 医師の確保
2. 依存症、発達障害への医療
3. 外来管理棟、サービス棟等の建物の老朽化